

- Topix① 第42期定時株主総会開催報告 ④ 「ecbeing」新サービス開始！
② 自己株式取得について ⑤ 当社記事掲載(株式ニュース)
③ スtockオプション付与について ⑥ 第1四半期決算発表日(予定)

① 第42期定時株主総会開催報告

●●第42期 定時株主総会開催いたしました●●

報告事項

第42期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

第42期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)計算書類報告の件

決議事項

第1号議案 定款変更の件

第2号議案 取締役9名選任の件

第3号議案 スtockオプションとして新株予約権を発行する件

なお、取締役、監査役は下記の通りであります。

代表取締役会長	林 勝	常勤監査役	笠井 隆
代表取締役社長	林 宗治	監査役	花水 征一
取締役	中桐 雅宏	監査役	山本 勲
取締役	林 雅也		
取締役	益田 正		
取締役	大石 靖		
取締役	辻尾 伸賢		
取締役(社外)	遠藤 忠宏		
取締役(社外)	阿部 新生		

決議事項につきましては、株主の皆様のご理解を頂戴することができ、すべての議案にご賛成いただきました。

今後につきましても、株主様のご指導。ご鞭撻を賜りながら、全社一丸となり、業績拡大を目指して参ります。

当日、ご出席いただきました株主様におかれましては、ご多忙のところ、ご出席くださいまして、ありがとうございました。

② 自己株式の取得に関するお知らせ

当社は、平成21年7月1日取締役会決議で、経済・市場情勢の変化に対応して、財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することが可能となるよう、自己株式の取得を決議いたしました。取得する株式数は上限144,000株(取得価額の上限:1億円)とし、買付期間は平成21年7月2日から9月30日までであります。

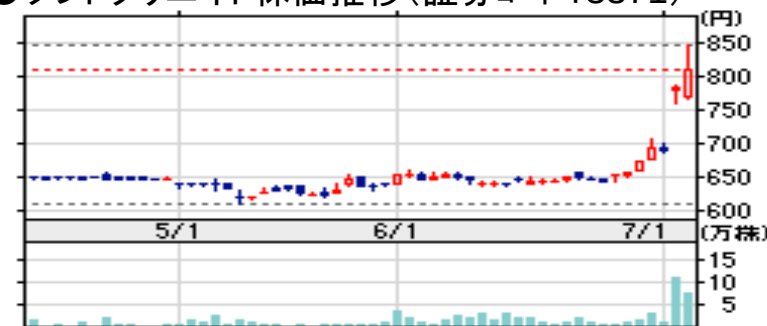
<自己株式の一般的な活用方法>

- ストックオプション：行使の際、新株を発行せず自己株式を代用
- 事業再編戦略：資本提携に伴う第三者割当増資、株式交換等の際、新株を発行せず自己株式を代用

※上記のほか、財務戦略等の様々な活用方法が考えられます。

自己株式の活用により、発行済株式総数の増加による価値の希薄化を防止することが可能となります。

●ソフトクリエイティブ株価推移(証券コード:3371)



③ストックオプション(新株予約権)の発行に関するお知らせ

当社は、平成21年6月26日開催の当社第42期定時株主総会において承認可決されました「ストックオプションとして新株予約権を発行する件」に基づき、平成21年7月1日及び7日開催の取締役会の決議により、当社取締役(社外取締役を除く)3名、執行役員8名および従業員208名、当社子会社の取締役2名および従業員5名に対して、平成21年7月8日に新株予約権の割当を実施いたしましたので、お知らせいたします。なお、新株予約権の総数は1,284個(1株当たり行使価額769円、発行価額総額98,739,600円)となっております。(※大株主(付与対象者)には付与していません。)

④当社主力製品「ecbeing」新サービス開始



～ecbeingに高精度なレコメンド機能を搭載～

主力商品であるECサイト構築パッケージ「ecbeing」に、高精度なレコメンド機能「ecbeingレコメンダーforASP」(以下本機能)を新たに搭載しました。本機能を利用すると、ECサイト利用ユーザーの閲覧履歴や購買履歴を自動的に収集して解析し、それぞれのユーザーがもっとも興味を持つと予測される商品を自動的に推薦することができ、コンバージョン率やユーザー一人当たりの購入単価が上昇し、ECサイトの売上を向上が見込まれます。更に本機能で計算されるユーザー別の推薦情報を、メール配信システムと連動させることにより、ユーザー一人ひとりに最適化されたレコメンドメールを配信することもできるため、メールマーケティングの強力な武器としてもご活用いただけます。

ソフトクリエイトでは「ecbeingレコメンダーforASP」を既存のお客様及び今後「ecbeing」をご利用いただくお客様にご提供することで、ECサイトの競争力を一段と高めることに貢献してまいります。

⑤当社記事記載

当社記事や「Yahoo! Japan」株式ニュースに掲載されました。

サーチナ

ソフトクリエイト:業績のV字回復を果たし東証1部目指す

2009年 6月29日(月) 11時30分

■ソフト開発力とサービスはEC業界のトップ

ソフトクリエイト <3371> の前2009年3月期連結業績は、5月8日に発表されているように、対08年3月期比で売上高1.0%増、営業利益4.9%増、経常利益1.1%増とリーマンショックによる企業のIT投資の抑制にもかかわらず増収、増益を達成し、健闘しているといえる。

「今期はソフト開発に投資して、来期より業績のV字回復を果たし、東証1部を目指します。」とのこと。V字回復の背景には、現在進めているソフト開発により、画期的な新製品の販売開始があると思われる。

企業業績はもはや導入しているITの優劣で左右される時代となってきた。したがって、EC業界でトップの開発力を持つ同社の優位性は今後も継続するといえる。(情報提供: 日本インタビュー新聞社 Media-IR)

URL: http://charge.biz.yahoo.co.jp/vip/news/scn/090629/090629_mbiz055.html

今後も、積極的なIR活動を行ってまいりたいと考えております。

⑥平成22年3月期 第1四半期決算発表日:平成21年7月27日15:00発表を予定しております。